

令和8年度

幼稚園だより 9月号



文京区立千駄木幼稚園

大切につなぎたいこと

園長 篠澤 恵理

千駄木幼稚園は、今年度で開園50周年を迎えるにあたり、この夏は、本園の周年記念誌を熟読し、半世紀に渡る歩みを振り返りました。周年記念誌には、「自生している植物や樹木を生かし、子どもの遊びと生活を中心に、幼児にふさわしい建物を設計した」と、記載されています。園舎の廊下は、子どもたちが様々な遊びができるように広くとり、階段は吹き抜けにして、子どもたちがのびのびと過ごせることを願っていたそうです。

また、開園して2年後には、文京区研究協力園を受けて研究発表を行っていました。研究主題は、「幼児自ら活動に取り組み、よく見たり、考えたり、工夫したりする態度の育成」です。幼児自ら取り組むためには、幼児が手に取りたくなったり、やってみたくなったりするような環境を整え、適切な言葉を掛けながら、思いに寄り添っていく教師の援助も重要で、このことは、今も本園の園内研究でも問い直している視点です。改めて、これまでの研究もなぞりながら、本園が開園当初から大切にしてきた教育内容をつないでいきたいという思いを新たにしました。

この度、幼稚園の歴史が分かる写真を園内に掲示しました。開園当初から、隣接する千駄木小学校や文林中学校と心温まる交流をしていたことも分かりました。駒込保育園の子どもたちと一緒に栗の実を拾った写真もありました。また、シイの実を煎って食べたり、烏骨鶏やウサギなどを飼育したりと、ワクワクする体験がたくさんあったようです。時代ごとに取り組み方は変わりましたが、大切にしたい教育内容は、開園当初の研究主題にあるような「主体性」や「思考力」の育成です。今できることを探りながら、9月からの幼稚園生活も、毎日の遊びが楽しく豊かになるように環境を整えたり、秋野菜を植える準備をしたりして、子どもたちの「大好きなこと」を増やせるように計画しました。園庭の地面には、セミの誕生した穴があり、その近くにはセミの抜け殻も見付けられます。トンボやコオロギも、子どもたちとの出会いを待っています。子どもたちが、様々な人々や自然などとの関わりの中で、自分から物事をよく見たり、考えたり、工夫したりできるように支えてまいります。

開園50周年記念事業として、保育参観日には、親子製作を予定しています。子どもたちと共に、保護者の皆様にとっても心に残る時間をもてればと考えています。2学期も、どうぞよろしくお願いいたします。



夏の間、カメやモルモットの世話を頑張ってくれた皆様
ありがとうございました！

【夏の預かり保育】真夏でも、涼しい木陰で元気いっぱい遊びました。

